

(D) 国立文書館は、研究者の研修を行う。研究調査の連絡にあたる。

というわけである。このような文書館の具体的実現化のために、④の法規とともに、種々検討して案を構成する審議会を内閣総理大臣のもとに組織すべきである。それは、官公庁の文書記録関係者と学術会議会員とを代表するもので構成すべきであろう。

4-63

庶発第892号 昭和34年11月28日

科学技術庁長官 中曾根 康 弘 殿

日本学術会議会長 兼 重 寛九郎

プラズマ研究所の設立について（勧告）

標記のことについて、本会議第29回総会の議に基き、下記のとおり勧告します。

記

プラズマの科学を体系的に研究し、あわせて核融合制御の原理を探究し関連技術の開発の基礎を培養するために、文部省所管のプラズマ研究所を設立する。

このプラズマ研究は、

- (1) 理論・基礎実験・高温プラズマの各部門から成り、それらの部門は相互に緊密に協力する。
- (2) 全国的な共同研究をたてまえとし、このため関係研究機関と密接な連絡をとり、研究者の自主的運営の精神を具体化するための組織をもつ。
- (3) 基礎研究であるにも拘らず相当多額の経費を必要とし、なかでも超高温プラズマ発生装置の建設維持には予算上特別な配慮が望まれる。

理 由

将来のエネルギー問題を根本的に解決するであろうといわれている核融合エネルギーの利用については、高温プラズマの磁氣的閉じこめの着想が生れてから急速に研究が盛んになり、初期段階には全く秘密裡に行われていたが、昨年のジュネーブ会議の前後に大量の研究報告が公開されるようになり、その実現のイメージが相当明瞭になつてきた。しかしながら、初期の試みは多分に摸索的であり、いまだ熱核反応の実現に至っていない。ここに深い反省がおこり、プラズマに関する基礎的体系的研究の積み上げが先行しなければ、熱核反応の制御は実用的段階に達しないであろうと見られるようになった。プラズマは他の研究分野、たとえば天体物理学においても極めて重要な研究対象である。また広く工学諸分野にも応用されているがプラズマの本質の解明とともに新しい応用分野が期待されている。したがってプラズマの研究は、それ自身としての重要性をもつ。

わが国でも、核融合に関連して数年前から各地の大学や研究所で研究が始められ、今日ではこの問題に関心をもつ研究者は相当の数に達し、全国的視野でこの研究の促進策を講ずる機運は十分熟していると見なされる。

その研究体制をどうすべきかについても、この一・二年活発な議論があり、本会議の核融合特別委員会は、これらの情勢に応じ、研究体制確立の必要上から組織されたものである。核融合特別委員会は、約半年間熱心に討議した結果、プラズマ研究所の設置を、全国の研究機関の充実と平行して、行うことが現情勢から見てもつとも適切であると考えらるに至つたものである。

なお、このプラズマ研究所は、その基礎研究の性格から文部省所管とするのが最もふさわしく、将来、核融合が現実化した場合には、当然その技術的開発のために別の施設が設けられることが必要であるが、その際においても、この研究所はなお、プラズマの基礎研究をおこなう施設として十分の存在価値があると考ええる。

4-64

庶発第911号 昭和34年12月4日

科学技術庁原子力局長 佐々木 義 武 殿

日本学術会議事務局長 竹 下 俊 雄

原子炉の安全性について（要望）

本会議の原子力関係委員会は、去る12月2日標記のことについての報告会を開催し、日本原子力発電株式会社および原子力委員会、原子炉安全審査専門部会の方々から報告を伺い、それについて質疑を行いました。そして、12月3日開催の原子力問題委員会において審議の結果、下記の事項について原子力委員会の御配慮を得たい旨強い要望がありました。

つきましては、原子力委員会よろしくお取り計らい下さるようお願いいたします。

記

- (1) 「原子炉の安全性について」は昭和34年10月19日付庶発第815号をもつて本会議事務局長から科学技術庁原子力局長あてに申し入れたが、それらの事項については、未だ措置せられてないので、早急に善処せられたい。
- (2) 日本原子力発電株式会社の原子炉の設置について、最終的な決定がなされる前に、なお広く学界の意見を聴取せられることが望ましい。
- (3) 原子炉の設置に当つては、設計・管理・運転の実施上絶対に守られなければならない条件が多い。ついでには、原子力委員会において、それらが確実に履行されるような体制の確立が望ましい。

5-1

The President
Academy of Sciences
23 Quai de Conti, Paris VI^e
FRANCE

Subject: Reported plan for Nuclear Test in Sahara
(声 明)

Dear Sir, I have the honour of communicating to you an appeal to scientists of your country adopted by Management Committee of the Science Council of Japan at its meeting held on January 22, 1960 as follows:

The Science Council of Japan has repeatedly appealed to their fellow scientists in different parts of the world